



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomono-mori.net> <mailto:info@kodomono-mori.net>

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2021年11月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新型コロナ感染症状況が落ち着いてきた秋、少しずつ野外での活動が再開されて来ようです。
写真は、今年の秋に、福島県の「伊達こども園」で行われた植樹会で植えられた東北のどんぐりの苗木です。
子どもたちが、元気にどんぐりの苗木を植える風景に、子どもたちの明るい未来の可能性を感じました。
感染症の収束を心から願っております。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ2021」伊達こども園植樹会レポート
2. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内
3. 地元の森でどんぐりを拾う活動レポート
4. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2021年11月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。
しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

(公社)大谷保育協会

保育環境研究所ギビングツリー

(公社)国土緑化推進機構

NPO法人 富良野自然塾

(公社)こども環境学会

国際校庭園庭連合日本支部

(一社)日本森林インストラクター協会



1. 「東北復興グリーンウェイ2021」伊達こども園植樹会レポート

2021年11月18日(木)に、福島県「伊達こども園」の園庭で、「東北復興グリーンウェイ」の植樹会が開催されました。同園では、「東日本大震災」原発災害の除染作業によって失われた地域の緑の再生活動として、園庭にどんぐりの森づくりを進められ、「東北復興グリーンウェイ」が活動を継続的に支援しています。今年は、園庭に7本のどんぐりが植えられました。



今年の植樹会には、年長組80名が参加してくれました。開会式では、「伊達こども園」の内藤副園長先生にごあいさついただき、なぜ、どんぐりの苗木を植えるのかを子どもたちにお話いただきました。

続いて、子森ネット塚原代表より、「みんなで元気にどんぐりの苗木を植えよう！」と子どもたちに応援メッセージが送られました。

どんぐりの木を植える前に、「どんぐりSDGs劇団」によるお芝居「どんぐりの森のドンちゃんとグリちゃん」が上演されました。どんぐりの森に住む「どんぐり〜ず」が、いろいろな動物たちとの出会いや様々な体験の中で、木や森の大切さ、そして、森に住むものはみんな仲間、互いに分かち合う心が大切なことに気づいていくお話です。

「どんぐりSDGs劇団」は、子どもたちにお芝居を通じてSDGsの大切な心を伝えるために、「どんぐり〜ず」によって結成されました。



そして、いよいよ植樹活動です。まずは、藤田森林インストラクターによる植え方の説明があり、それからグループに分かれて全部で7本のどんぐりの苗木を園庭に植えました。

植えられている苗木は、東北のどんぐりを全国のお友だちが苗木に育てて送ってくれた苗木です。今年も、どんぐりの苗木を植える活動を通じて、「伊達こども園」の子どもたちと全国の子どもたちが“どんぐりの絆”で結ばれました。



「どんぐり〜ず」も植樹活動を手伝ってくれました。



最後にみんなで記念撮影を撮って、植樹会を終了しました。

2. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内



全国の保育者、及び保育関係者が、より良き保育づくりのための情報交換と交流を目的に集う、**ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2022」福井大会**のご案内です。

1日目は、これからSDG s の時代を生きていかなばならない子どもたちに、持続可能な環境の心を育む**幼児(少)期の環境学習(教育)**を考えます。さらに、園庭を多様な自然と環境の体験フィールドとして緑化することを目指す**「園庭緑化運動」**2年間の活動を総括します。2日目は、保育施設オリジナルの防災づくりを目指す**「保育防災アクションマイスター認定講座2021」**の活動発表と認定者1期生の認定式を開催します。

コロナ禍の事情で、会場参加者数が限られています。会場参加ご希望の方は、早めのお申込みをおすすめします。

【開催概要】

1. 日 時：2022年2月14日(月)13:00～17:30 2月15日(火)10:00～14:30
2. 会 場：「福井市地域交流プラザ（アオッサ）」研修室601B、C（ＪＲ福井駅東口から徒歩1分）
3. 応募方法：先月号の子森通信と同封でお届けした募集チラシでお申込み下さい。
[ホームページからもお申込みいただけます。](#) ホームページは、QRコードからもご覧いただけます。
 感染症対応のため、会場参加とオンライン参加併用の募集とします。
4. 募集人数：★会場参加者（30名）★オンライン参加者（50名）＊定員になり次第締切ります。（先着順）
5. 講 師
 ＊基調講演：環境教育としての自然体験～こどもの自然体験の重要性～
 北海道教育大学 教育学部 岩見沢校アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩（のうじょう あゆむ）氏
 ＊「園庭緑化運動」活動報告
 田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学 専攻 准教授 仙田 考（せんた こう）氏
 ＊保育防災講座：消防庁アドバイザー 株式会社タフ・ジャパン 代表取締役 鎌田 修広（かまた のぶひろ）氏
6. その他、詳細は、ホームページをご参照下さい。



3. 地元の森でどんぐりを拾う活動レポート

秋が深まり、今年も全国からどんぐりを拾う活動のレポートが届いています。今回は、福井県「大野幼稚園」さんからのレポートをご紹介します。以下、同園三屋先生からのレポートの一部です。活動の詳細は、後日、ホームページにてご紹介いたします。

- 日時：令和3年10月17日（日） ■場所：大野市前坂キャンプ場 ■参加者：園児、保護者、保育教諭49名
 ■活動内容

- ①大型バス2台（感染症対策の為、家族ごと間隔をあけ乗車）で現地まで移動 ②PTA会長、園長挨拶・写真撮影
 ③どんぐり拾い（約30分）④自然体験あそび『葉っぱでリース・ハロウィンファッションショー』⑤昼食・自由行動

※拾ったどんぐりを各家庭で3日間水に浸け、沈んだどんぐりと浮いたどんぐりに分けて園に持ってきてもらう。

沈んだどんぐりで発芽しているものから、子ども達がポットに植える。



4. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2021年11月号)

「子森通信」では、毎年、保育・幼児教育において、優れた研究や活動に取り組んでいらっしゃる4人の方々に、3か月交代でリレーエッセイをお願いしております。「子森通信」2021年10月号から12月号は、全国保育士会 副会長 認定こども園あけぼの愛育保育園 園長 北野 久美先生にお願いしました。2回目のご寄稿です。

できないひき算よりできるたし算での共育ち

全国保育士会 副会長 認定こども園あけぼの愛育保育園 園長 北野久美



「少子高齢化」といわれて久しく、加えてICT、AI時代となり、数年前には「あと20年でなくなる50の仕事」とか「2030年未来への選択」等の本もベストセラーになりました。「未来」に対しての警鐘がどんどん大きくなり、ある意味不安を駆り立てることで、啓発しているのかもしれないと思ったほどです。少子化の加速で「人口減少地域における…」といった表現も多くなりました。人口減少がまさに大きな課題です。日本の女性人口の半分以上が50歳以上となった今、命を生み出す性の数が限られ、「授かる」から「作る」へと変遷し、少ない子どもをどう大切に育てるのか、社会的な課題でもあります。

国においても「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」がすでに7回行われ、子ども庁についても多方向からの議論があります。しかし、そういった会議を傍聴したり、資料を拝見したりするたびに、「保育」について「保育士」について今だからできる整理が必要だと痛感しています。

しかし、いろいろな会議での発言の際、非常に気になるのが、養成側からの発言です。コロナ禍で、社会になくなくてはならない存在であると認識された“保育”“保育士”に対して、そのスキルを活かしての地域子育て支援等期待されればされるほど、今の養成の実情では無理だという話をされるのです。実際現場でも初任者をどう育てるかは大きな課題です。



ただ「遊ぶ」という漢字さえ書けない学生に、そこまでの指導は難しい」「今の学生は簡単な言葉さえ通じない」との言葉には、どうしても頷けません。確かに便利すぎる世の中です。生活力は弱いかもしれないけれど、吸収力もあり、経験すればそれをどんどんアレンジする力も持っています。子どもと一緒に感動経験を共有しながら学び、2年目には確実に力をつける保育者がたくさんいます。

できない、わからない、の“ひき算”ではなく、これがわかる、これができるというように、子どもの育ち同様に、的確な指導と寄り添いで、力を発揮できる“たし算”の環境づくりが保育の肝だと思うのです。子育て支援、子育て支援、親育ち支援同様に、保育士育ち支援、チーム育ち支援が育成のポイントなのです。養成と育成のはざままで混乱することがないよう「友育ち」を意識したいのですが、これはクレイゴでしょうか……。



★information : 北九州市保育士会 YouTube

下記アドレスにて、北野先生が会長を務めておられる「北九州市保育士会」の活動がご紹介されています。

⇒ <https://www.youtube.com/channel/UClnk9anR2i5yheiBrDQ05Bg>

* 右のQRコードからもご覧いただけます。